

米国 インフレは緩やかに上昇（17年9月消費者物価）

：2017年10月16日（月）

～より実態に近い連鎖CPIコアは前年比での低下に歯止めがかかったことを示す～

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 桂畑 誠治

03-5221-5001

消費者物価（Consumer Price Index）

	総合		コア		エネルギー	消費者物価							商品 コア	サービス コア
						食料品	住宅	アパレル	運輸	医療				
16/09	+0.257	(+1.5)	+0.119	(+2.21)	+2.4	▲0.0	+0.3	▲0.5	+0.8	+0.2	▲0.1	+0.2	▲0.1	+0.2
16/10	+0.285	(+1.6)	+0.147	(+2.14)	+2.5	▲0.0	+0.3	+0.2	+1.0	+0.1	+0.0	+0.2	+0.0	+0.2
16/11	+0.209	(+1.7)	+0.182	(+2.11)	+1.0	▲0.0	+0.2	▲0.3	+0.6	+0.1	▲0.2	+0.3	▲0.2	+0.3
16/12	+0.257	(+2.1)	+0.220	(+2.20)	+1.2	▲0.0	+0.3	▲0.4	+0.8	+0.2	+0.0	+0.3	+0.0	+0.3
17/01	+0.551	(+2.5)	+0.308	(+2.27)	+4.0	+0.1	+0.3	+1.4	+2.2	+0.2	+0.4	+0.3	+0.4	+0.3
17/02	+0.122	(+2.7)	+0.206	(+2.22)	▲1.0	+0.2	+0.3	+0.6	▲0.5	+0.1	▲0.0	+0.3	▲0.0	+0.3
17/03	▲0.288	(+2.4)	▲0.122	(+2.00)	▲3.2	+0.3	+0.1	▲0.7	▲1.4	+0.1	▲0.3	▲0.1	▲0.3	▲0.1
17/04	+0.167	(+2.2)	+0.071	(+1.88)	+1.1	+0.2	+0.3	▲0.3	+0.1	▲0.2	▲0.2	+0.1	▲0.2	+0.1
17/05	▲0.128	(+1.9)	+0.063	(+1.73)	▲2.7	+0.2	+0.2	▲0.8	▲1.4	▲0.0	▲0.3	+0.2	▲0.3	+0.2
17/06	▲0.023	(+1.6)	+0.119	(+1.70)	▲1.6	▲0.0	+0.1	▲0.1	▲0.7	+0.4	▲0.1	+0.2	▲0.1	+0.2
17/07	+0.106	(+1.7)	+0.114	(+1.69)	▲0.1	+0.2	+0.1	+0.3	▲0.1	+0.4	▲0.1	+0.2	▲0.1	+0.2
17/08	+0.402	(+1.9)	+0.248	(+1.68)	+2.8	+0.1	+0.4	+0.1	+1.4	+0.1	▲0.1	+0.4	▲0.1	+0.4
17/09	+0.548	(+2.2)	+0.127	(+1.69)	+6.1	+0.1	+0.2	▲0.1	+2.8	▲0.1	▲0.2	+0.2	▲0.2	+0.2

（注）括弧内は前年同月比

**9月の総合が前月比
+0.548%と加速した
一方、コア指数（コ
アインフレ）は前月
比+0.127%と減速**

17年9月の消費者物価（総合）は、前月比+0.546%（前月同+0.402%）と市場予想の前月比+0.6%を小幅下回った。エネルギーがガソリンや燃料油の大幅上昇で前月比+6.1%（前月同+2.8%）と加速した一方、食料品が前月比+0.1%（前月同+0.1%）と変わらずとなったうえ、エネルギー・食品を除く消費者物価（コアインフレ、コア指数）は前月比+0.127%（前月同+0.248%）と市場予想同+0.2%を小幅下回り、前月から減速した。コアインフレは緩やかな上昇傾向を維持している。

ハリケーン「イルマ」はフロリダでの集計に若干影響したとだけ労働省が指摘している。ハリケーンのインフレへの影響は現時点で不確かであるが、ガソリンなどエネルギーを押し上げた。

**9月は財価格の下落
が続くなかで、サー
ビス価格が低下**

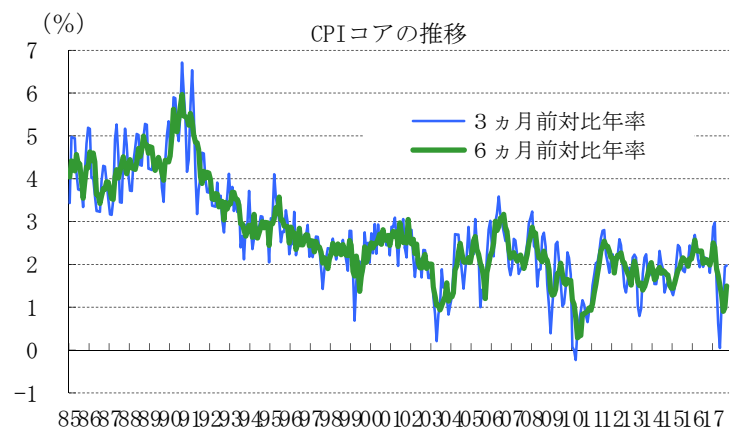
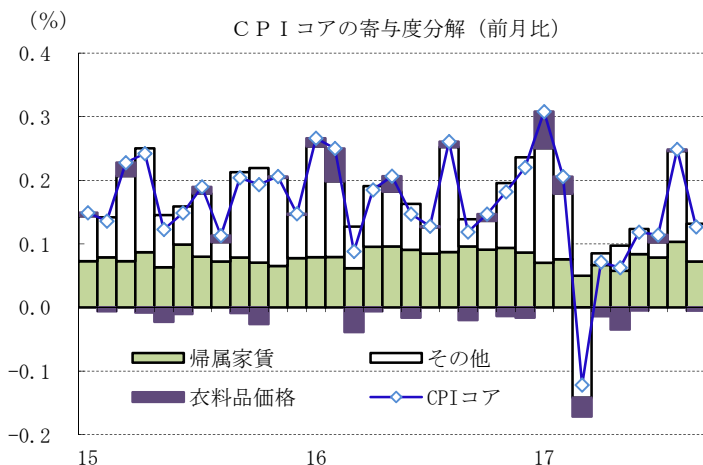
コアインフレでは、商品（財）が下落幅を拡大したうえ、サービスの伸び率は鈍化した。商品（財）価格は、アルコール飲料が加速したほか、タバコ、歯ブラシ、化粧品などその他財が上昇に転じた。また、テレビやゲームなど娯楽商品の下落に歯止めがかかった。一方で、自動車、アパレル、処方箋医薬品、家庭用家具・備品が下落に転じたほか、処方箋外医薬品、IT関連商品、教育関連書籍が下落幅を拡大したことで、前月比▲0.2%（前月同▲0.1%）と下落ペースが加速した。

サービスに関しては、懸案の携帯電話サービスが大幅な値引き競争の一巡により前月比+0.4%（前月同▲0.1%）と上昇に転じたほか、航空運賃など公共サービスが同+0.4%と上昇に転じた。一方、カー・リースが前月比▲0.4%と下落に転じたほか、レンタカーが同▲2.8%と下落幅を拡大した。また、自動車保険が前月比+0.5%（前月同+1.0%）、賃貸料が同+0.2%（前月同+0.4%）、変動の大きいホテル等宿泊費が前月

比+1.7%（前月同+5.1%）、需要の堅調なスポーツイベントや会員サービスなどを含む余暇サービスが同+0.2%（同+0.5%）と前月の高い伸びの反動もあり鈍化した。さらに、インターネットサービスが前月比0.0%（前月同+0.1%）、帰属家賃が同+0.2%（同+0.3%）、医療保険などを含む医療サービスが同+0.1%と鈍化したこと等を背景にサービスコアは前月比+0.2%（前月同+0.4%）と低下した。

コアインフレのモメンタムは安定

コアインフレのモメンタムをみると、3ヵ月前対比年率で+2.0%（前月+1.9%）、6ヵ月前対比年率で+1.5%（前月+1.0%）と加速した。携帯サービスの価格引き下げなど一時的な要因で下ぶれていたが、影響が弱まっている。これらの要因を除けば中短期でのコアインフレの上昇モメンタムは安定的な水準を維持していたと判断される。



前年比では9月の総合指数が+2.2%、コア指数は+1.7%

9月の消費者物価動向を前年比でみると（以下、前年同月比）、総合が+2.2%と市場予想+2.3%を下回ったが、前月の+1.9%から上昇した。コア指数が+1.7%（前月+1.7%）と市場予想+1.8%を下回り前月と同率となったものの、食料品が+1.2%（前月+1.1%）、エネルギーが+10.1%（前月+6.4%）と上昇した。

コアでは、財コアは▲1.0%と下落幅を拡大した。一方、サービスコアでは、昨年急激に上昇した医療費の低下や携帯サービスの大幅な下落等による押し下げ圧力の強い中で、帰属家賃、賃料、自動車保険など需要の強い分野の上昇を背景に全体で+2.6%とプラス幅を小幅拡大した。

また、より実態に近い物価動向を示す連鎖CPIコアは+1.49%（前月+1.46%）と3ヵ月連続で上昇した。

さらに、FRBが目標としているPCEデフレーターは9月に+1.6%（前月+1.4%）、PCEコアデフレーターは前年比+1.35%（前月+1.29%）に上昇すると予想される。

CPIコアは今後徐々に上昇する見込み

消費者物価（CPI）コアは、10月分以降で医療費の下押し圧力が弱まるため上昇を継続すると予想される。ただし、緩やかな景気拡大、激しい価格競争、技術革新などを背景に、中期的に前年比+2%程度での推移を続けると見込まれる。

